

可能性を最大限開花させ

人口減少に負けない高収益体質へ

山梨県には素晴らしい可能性に満ちた産業や地域資源があふれていますが、しかし、これまで十分に活用されてこなかったものも数多くあったのではないのでしょうか。この埋もれた可能性をしっかりと発掘し、他の可能性との連携やこれまでもと違った活用の仕方をするなどの一手間で、さまざまな分野の高付加価値化が実現されます。高付加価値化によって得られる「果実Ⅱ収益」は、皆さんの暮らしの向上につながります。



〔産業の高付加価値化〕 成長産業を支援し

県内経済の安定と成長につなげる

― 医療機器分野への参入を支援

機械電子産業は山梨県の主力産業で、付加価値額の6割を占めます。その高い技術力を生かし、より多くの県内企業が今後も成長が期待される医療機器分野に進出できるように、ワンストップで企業を支援する「メディカル・デバイス・コリドー推進センター」の体制を強化します。

東京圏の医療機器メーカーを集中的に訪問して求めている技術を把握したり、県内企業の技術力をPRする動画を制作し宣伝したりして、県内企業が医療機器分野へ新規参入できるように後押しをし、県内経済の安定や成長につなげていきます。

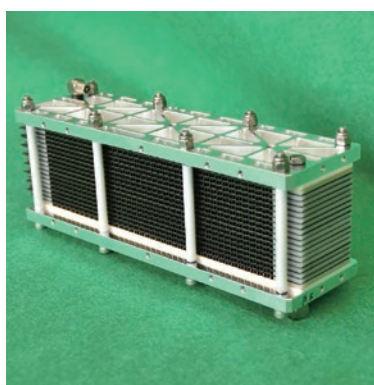
― 水素・燃料電池の基幹産業化

水素・燃料電池の研究でも、山梨県は国内でもトップレベルの蓄積があることをご存知ですか。県では今年度、山梨大学などと共同で開発した小型で高性能な燃料電池「やまなしスタック」の実用化に取り組み、これを活用した新製品の開発を支援します。

また、新たな研究開発拠点として

整備を進めてきた「次世代エネルギーシステム研究開発ビルディング」が甲府

市の米倉山に完成します。すでに、日本を代表する燃料電池の評価機関「FC-Cubic^{キュービック}」の移転が決まっています。これを一大チャンスと捉え、関連する産業や企業を集積できるように働き掛けていきます。



新製品への活用が期待される
小型の燃料電池「やまなしスタック」

― スタートアップ企業の成長を支援

社会の課題解決に取り組む「スタートアップ企業」を山梨県に集め、県内企業と連携し、産業を活性化させたいとの思いから、最先端の技術やサービスの実証実験の場を、スタートアップ企業に提供します。

実証実験終了後も専門家による手厚い伴走支援をして、県内での事業拡大を後押ししていきます。

【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】

誰も取り残さない
人に優しいデジタル社会を目指す

―三つの分野でデジタル化を推進

DXとは、データやデジタル技術の活用がもたらす社会変革を意味しています。山梨県は「誰も取り残さない、人に優しいデジタル社会」をめざし「暮らし・産業・行政」の3分野で積極的にDXを推進します。高齢者も、障害のある方も、外国人の方も戸惑うことなく暮らせる、利便性の高い社会を実現します。

―暮らしのDXを進める

暮らしのDX推進に向けては、現在県内の3町村で、高齢者が使いやすいタブレット端末を使って行政情報などをお知らせする実証事業が県の支援で行われています。

また、スマートフォンアプリで配車を予約し、希望の時間に運行区域内の希望の場所まで移動できる、人工知能(AI)を活用したオンデマンド交通の導入を検討している市町村への支援など、今年度は高齢者に限らず、さまざまな方の利便性を高める実証的な取り組みも進めています。

―産業分野のDXを支援

介護現場で介護ロボットや情報通信技術(ICT)の活用が進むと、介護にあたる人の負担軽減や作業の効率化が進みます。製造業の現場でデジタル技術が導入されると、競争力や生産性が向上します。林業の現場で森林クラウドやICTを活用したスマート林業を推進することで、生産性が上がり、林業従事者の所得が向上します。また、山梨大学医学部附属病院ではAIを活用した在宅医療支援拠点や、遠隔による放射線治療システムの整備を進めます。

県は、こうしたさまざまな分野で行われる、デジタル技術を生かした取り組みを支援します。

―行政もDXを推進

県が持っているさまざまなデータを社会全体で活用できるようにするための基盤整備や、デジタル技術を最大限に活用して地域課題の解決につなげることができる人材の育成を庁内で進め、DXによる行政サービスの向上に取り組みます。



「スポーツで稼げる県づくり」 スポーツで地域を活性化

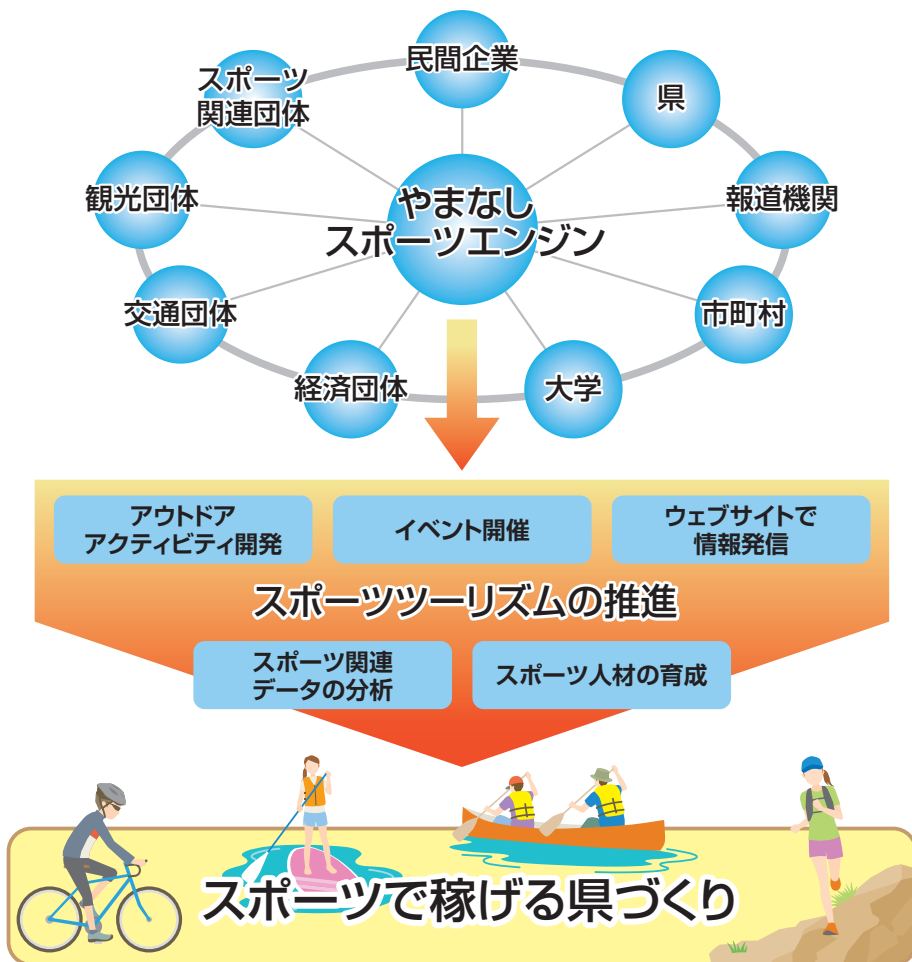
「やまなしスポーツエンジン」設立で
アウトドアスポーツを推進

豊かな自然環境に恵まれた山梨県は、コロナ禍で3密を避けられると注目を集めるアウトドアスポーツを楽しめる場として、大きな魅力と可

能性を秘めています。

この機会を生かすため、県は、スポーツを競技としての視点だけでなくビジネスの資源と捉え、上手に活用することで収益を生み出し、地域経済の発展につなげていくことをめざしています。

そこで、関係団体や民間企業と協



働し、スポーツツーリズムの推進な

どにより地域の活性化をけん引する組織「やまなしスポーツエンジン」を設立します。

やまなしスポーツエンジンは、自然環境を活用したアウトドアスポーツ・アクティビティの開発や、多数の参加が見込めるスポーツイベントの企画・開催をします。また、その過程で得た情報を分析し、新たな企画立案や人材の育成などの取り組みに生かします。そして事業の収益化を図ることで、将来的には自立した運営ができる組織をめざします。

その足掛かりとして、東京オリンピックを契機に機運が盛り上がるサイクルツーリズムに着目し、南アルプス林道を活用したサイクルイベントを試験的に開催することで、観光客の誘致や地域活性化を図ります。さらに、食や文化といった他分野とスポーツを連携させる取り組みも検討していきます。

これらにより、多くの方に山梨県を訪れてもらい、新たな関連ビジネスを呼び込むことで、県内産業の活性化や雇用機会の拡大に結びつけ「スポーツで稼げる県」をめざしていきます。

「森林空間の高度活用」 誰もが楽しめる森林空間へ

地域活性化につながる森林活用



森林の中でMTBを楽しむ子どもたち

山梨県は、森林が県土の約78%を占める森林県です。その保全を図りつつ活用し、多くの方に森林の魅力を知ってもらうことで、地域活性化につなげていきます。

その一つがマウンテンバイク(MTB)での森林空間の活用です。「山梨MTB推進協議会」を設立し、利用者が安全に楽しめるルールやコースなどを検討したり、金川の森(笛吹市)にあるMTBコースを改修し、県内外の愛好者を呼び込んだりして、子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる森林空間をめざします。

【農村地域の高付加価値化】

農泊×福利厚生で農村地域に新たな価値を

農村を活用した
体験プログラムを提案



農泊が体験できる施設

農泊や農業体験は、ストレスを抱える都市部住民の「癒しの場」として注目を集め始めており、ストレスケアといった企業の福利厚生に活用できる高い可能性を持っています。

そこで、全国一の生産量を誇るブドウやモモをはじめ、米や野菜、花き、畜産など各地で多様な農業が行われている山梨県の特徴を生かし、企業向けに農泊や農業体験を活用したりフレッシュアッププログラムを提供する取

り組みを展開します。

今年度は、農泊事業者や農家などを対象としたセミナーを開催し、専門家による助言を受けながらプログラムの内容を検討していきます。さらに、農泊事業者や農家と企業とのマッチングをサポートしたり、モニターツアーを開催したりするなどして、プログラムの実施を支援します。農泊や農業体験を最大限に活用して、新たな交流を生み出し、農村地域の課題である担い手確保や所得向上にもつなげていきます。



農村地域の日常が高い付加価値を生み出す可能性を持っている

【文化芸術の振興】

伝統文化の継承と新たな文化創造を支援

「文化立県」の推進

文化芸術は、豊かな人間性や創造力を育むとともに、観光としての魅力や産業の付加価値を生み出す源となり、地域に活力をもたらします。そこで県では、さまざまなジャンルのクリエイターが活動する文化芸術の創造拠点となることで地域を活性化させていく文化立県をめざすべく、さまざまな施策を展開します。

クリエイターコミッション
やまなしで創作活動を支援

県外のクリエイターが、山梨県内でスムーズに創作活動ができるように支援する組織「クリエイターコミッション・やまなし（仮称）」を設置します。ウェブページを開設し、県外クリエイターが創作活動に必要とする環境が整った活動拠点の情報や、クリエイター同士の交流の場などを提供していきます。

県外クリエイターを県内に呼び込んだり、県内で開催する展示事業を支援したりするなど、創作活動がしやすい環境づくりに取り組み、本県から新たな文化芸術が創造されることをめざします。

文化芸術と観光の融合を促進



県の無形民俗文化財に指定されている追分の人形芝居(大月市)

文化芸術活動の機会を増やし、新たな需要と付加価値を生み出すために、伝統芸能団体が宿泊施設等で行う公演などを支援します。また、アドバイザーを配置し、上質な文化観光コンテンツとなるよう助言します。これらにより、観光資源を掘り起こし、新たな観光拠点としての魅力を再発見するなど、文化観光による地域の活性化を図ります。

【美酒・美食を通じた観光誘客】 食×ツーリズムで観光に付加価値を

「美酒・美食」ブランドの徹底追求

「食」は重要な観光コンテンツです。食を目的とする旅行者に選ばれる観光地となるためには「美酒・美食」のイメージを定着させることが必要です。そこで県では、県内外の料理人やソムリエなどをメンバーとする「美食コンソーシアム」を設立し、美食ブランドの創造をめざして活動してきました。

今年度は、山梨県の豊かな県産食材を活用した価値の高い料理を創作し、県産ワインや日本酒とのマリァージュによる「美酒・美食」の発表イベントを開催するなど、美食ブランドの確立に向けて、これまで以上に取り組みを進めていきます。



やまなしジビエや県産野菜などを使った料理

「ワイン県やまなし」を活用した 周遊観光の促進

日本ワイン発祥の地であり、生産量やワイナリー数が日本一の山梨県は、令和元年に「ワイン県」を宣言しました。今年度は、県産ワインをきっかけとした観光の付加価値を高めるためにオリジナルのワイナリーカードを制作したり、ウェブ上でワイナリー巡りなどのキャンペーン情報を発信したりしながら周遊観光を促進します。また、県民に県産ワインの魅力を再認識してもらうため、醸造家やソムリエによる県民対象のワインセミナーを開催するなどワイン県やまなしのブランド意識を高めていきます。



ワイナリーをきっかけにした観光誘客に取り組む

【観光の高付加価値化】 万全の感染症対策を 生かした観光を支援

観光誘客で 「山梨ファン」を増やす

グリーン・ゾーン認証制度は、今年第三者認証として全国に拡大し、県内でもほぼ全ての飲食業の皆さんが認証を受け、感染症対策を講じています。

この感染症対策への信頼感が旅行者の安心感につながり、昨年発表された中学生の修学旅行先ランキングでは京都に次ぐ2位となるなど、山梨県は旅行先として観光客に選ばれ、県となつていきます。

これを一過性のものとせず、万全の感染症対策や豊かな自然環境といった優位性を生かし、山梨県ならではの体験コンテンツを取り入れた教育旅行の誘致をさらに加速させていきます。

また、グリーン・ゾーン認証施設の利用や本県特有の食や体験を取り入れたプレミアムツアーを企画して販売する事業者を支援します。さらに、コロナ禍で減少したスポーツ・文化合宿の再開を支援するなど、コロナ後を見据えた観光誘客に取り組む「山梨ファン」の獲得をめざします。

【美酒美酒ブランド強化】 国内外への販売支援

ワインと日本酒でGI指定 輸出拡大に全力

国が地域ブランドを保護する地理的表示（GI）制度において、平成25年に全国初となるワインでの指定に続き、昨年4月には日本酒でもGI「山梨」の指定を受けました。同じ産地から2つの酒類が指定されたのは全国初の快挙です。

これを契機に、国内外に向けてPRする新たなツールとしてウェブページを構築し、山梨県が誇る高品質なワインと日本酒のブランドイメージ「美酒美酒」の定着をめざします。また、近年ワインや日本酒の消費量が増えているアジア圏など、海外に向けたプロモーションを支援することで、さらなる輸出拡大と認知度向上を図ります。



ワインと日本酒の上質さをPR

【食材の高付加価値化】 上質さのPRRでブランド価値向上をめざす

「おいしい未来へやまなし」の
推進でブランド力を強化

昨年4月に立ち上げた県産農畜水産物のブランド「おいしい未来へやまなし」で、品質の良さだけではない山梨県の農畜水産物の特徴を一体的に発信してきました。今年度はさらに、それぞれのブランドの付加価値の向上と、県全体のやまなしブランドの価値向上をめざします。

4パーミル・イニシアチブで 農業分野から脱炭素社会に貢献

県は、果樹栽培で発生する剪定枝を炭化させ、二酸化炭素を土壌に貯留することで地球温暖化の抑制に貢献する「4パーミル・イニシアチブ」を推進しています。この取り組みで生産された農産物を認証する制度を設け、ブランド化を図っていますが、今年度は新たに、ブランド力の強化と認知度向上のために、店頭プロモーションやウェブ広告の掲載などを組み合わせた効果的なプロモーションに取り組みます。

また、4パーミル・イニシアチブに果樹以外の作物でも取り組むため、有機質肥料の使用による土壌への炭

素貯留効果を検証するなど、農業分野からの脱炭素社会実現に向けた取り組みをさらに進めていきます。

アニマルウェルフェアで 全国トップを走り続ける

県は、家畜のストレスをできる限り少なくし、健康的な飼育方法をめざす「アニマルウェルフェア」の認証制度を全国の自治体として初めて創設し、家畜の快適性に配慮した畜産物という新たな付加価値の創出に取り組んでいます。

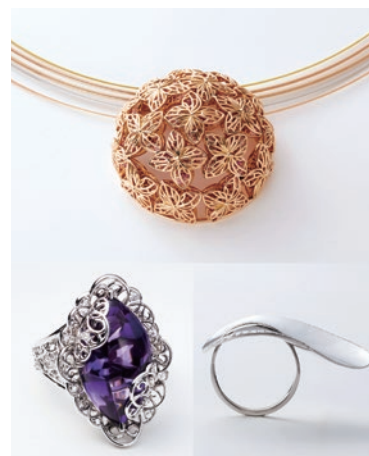
この取り組みでは、認証基準を満たす農場に付与するロゴマークを作成しました。今年度は新たに、メディア向けの情報発信や農家向けの講習会・研修会、消費者・畜産業者向けシンポジウムの開催などにより、認証制度の普及と理解促進を図り、県内外から選ばれる付加価値の高い畜産物をめざします。

【地場産業の高付加価値化】 地場産業の世界展開を支援

郡内織物や産地の良さを
国内外へ発信

郡内地域は、1000年以上の歴史を持つ織物産地として知られています。富士山の伏流水を使い、高度で熟練した技術が生み出す織物は、発色が良く繊細で上質なことから、裏地やネクタイ、傘、ストールだけでなく、インテリアや雑貨などにも使われています。

今年度からは、織物製品の新たな販路開拓のための海外プロモーションや観光客をターゲットにした情報発信の強化、後継者育成のための若手人材の情報交換会や勉強会を開催するなど、織物産地としての認知度向上とブランド確立を図ります。



世界に誇る山梨の宝飾技術
(提供:山梨ジュエリープロジェクト)

山梨ジュエリーの輝きを
世界へ届ける



各種取り組みへの周知を図るロゴマーク



郡内織物でつくられたネクタイ

山梨県は、企画・デザインや原料調達から、宝石研磨、貴金属加工、水晶美術彫刻などに熟練した職人による製造技術、さらには流通まで、ジュエリーに関わる産業の集積地です。貴金属装身具の生産額は国内全体の約25%を占め、全国一のシェアを誇ります。

長引くコロナ禍の影響で、展示会などの中止が相次ぎ、ジュエリー産業は打撃を受けています。そこで、新たな有力販路先として中東諸国に注目し、今年度は、現地での市場調査を実施するなど、産業全体を活性化させるための取り組みを展開していきます。